

東北の知財支援とともに、 “部会から東北会へ、仲間と歩んできた道”



弁理士 水野 博文

1) はじめに

このたび、知財功労賞・特許庁長官表彰という大変荣誉ある賞をいただきましたこと、身に余る思いでおります。

この受賞は私個人のものというより、これまで長年支えてくださった日本弁理士会東北会（旧・東北部会／東北支部）、そして地域の皆さま、活動をともしてきた仲間たちのお力があるからこそと心より感じております。

なお、私の事務所の状況に関しては、本誌メールマガジン第13号（2023年6月発行）に掲載済みですので、今回はむしろ、私を育ててくれた東北会について、ご紹介したいと思います。

2) 東北会の原点 - 40年の歩み

東北の知財支援の歴史は、今から40年ほど前にさかのぼります。

当時の東北・北海道地域には、まだ弁理士のネットワークがほとんどなく、知財の相談にも大きな困難が伴っていました。

中小企業の方々や発明家が知財活用に挑もうとしても、専門家に気軽にアクセスできる環境は整っていませんでした。

そんな状況を打開しようと、故・本名昭弁理士の呼びかけにより「東北・北海道懇談会」が発足。

これが現在の日本弁理士会東北会の原点となります。

その後、1987年に「日本弁理士会 東北・北海道地方委員会」、1998年に「東北・北海道部会」、2005年には「東北支部」として常設の事務局が設けられ、東北6県に根ざした知財活動が本格的にスタートしました。



3) 地域格差の克服 - 青森事務所の開設と成果

当時の最大の課題は地域格差の解消でした。

その象徴的な事例が青森県です。長年、県内に弁理士が常駐せず、日本弁理士会として全国初の会設青森事務所を開設（2010年）。

無料相談や出張セミナーを継続し、青森県内に弁理士が定着。2014年には会設事務所の役割を終えるに至りました。

この経験は、地方における知財支援の重要性と困難さ、そして意義を深く教えてくれるものでした。

4) 震災復興と知財 - 地域企業との連携

東日本大震災発生後は、地域の産業復興に知財が果たせる役割を考える機会が増えました。

福島県郡山市で開催された「知財広め隊」セミナーをはじめ、知財活用が地域の元気を取り戻す一助となる場面に多く立ち会いました。

苦しい状況下でも知財の力を信じて新たな価値創造に挑む地域企業の皆さんから、私自身も多くの勇気をいただきました。



5) 東北会の現在 - 活動の広がり

2019年、組織名称は「日本弁理士会東北会」へと改められました。

現在も無料相談、出張支援、知財教育など地域に根ざした知財支援活動が息長く続いています。

私自身も、東北・北海道部会時代から東北支部、東北会まで、一貫して役員や監査役として長年関わってまいりました。

6) 役員会と仲間たち - 人の絆が支える活動

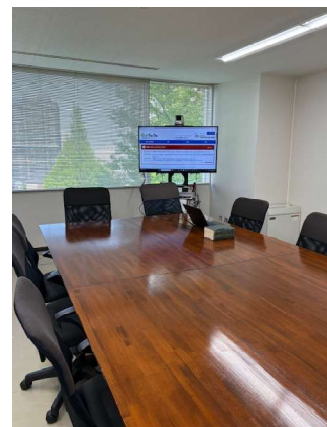
東北会の役員会は、毎月1回の開催を続けています。

極めて家族的な雰囲気の中、率直な意見が飛び交い、活動の健全な推進力となっています。

ここまでオープンな議論ができる場合は、全国的にも貴重だと感じています。

役員会後の懇親会はまた別の楽しさがあります。

地域の料理や地酒を囲んで交流を深め、2次会、3次会、時には4次会まで盛り上がることも。こうした人と人とのつながりが、東北会の活動を長年支えているのは間違いありません。



7) A I 活用と未来への展望 – 新しい知財支援の形へ

近年はA I や生成A I の特許事務所業務への活用が必須となっており、特許・商標の先行技術調査、文献レビュー、出願書類や意見書・翻訳文書のドラフト作成など、A I ツールは飛躍的な効率化をもたらしています。

しかし、A I は万能ではなく、弁理士としての専門的判断や戦略的な思考は今後も欠かせません。人の知恵とA I の力の融合により、より迅速かつ質の高い知財サービスを地域の皆さまに提供できるものと確信しています。

東北会では、最新技術の活用事例を共有し、業務改革やスキル向上につなげていきたいと考えております。

8) 結び – 感謝とこれから

今回の受賞は、こうした素晴らしい仲間たちと地域の皆さまの支えがあってこそいただけたものです。

あらためて深い感謝を申し上げるとともに、これからの時代にふさわしい知財支援のあり方を模索するとともに、A I や新技術も柔軟に活用しながら、仲間とともに東北地域の知財支援の輪をさらに広げ、地域の活性化と発展に貢献していきたいと考えております。

最後に、本年、東北支部から「東北会」へと名称が改められ、東北会創立 20 周年を迎えることとなりました。記念事業も計画しております。

今後とも、どうぞ東北会をよろしくお願いいたします。

以上